

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察特殊報について

平成29年度病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

平成29年度病害虫発生予察特殊報第1号

- 1 病 害 名 : スイカえそ斑点病
- 2 病 原 菌 : メロンえそ斑点ウイルス—スイカ系統 (*Melon necrotic spot virus* スイカ系統:MNSV-W)
- 3 発 生 地 域 : 沖縄本島
- 4 発 生 作 物 : スイカ(台木:ユウガオ及びカボチャ)

5 発生確認及び発生状況

- (1)平成29年4月、沖縄本島で施設栽培された、ユウガオ「かちどき2号」台木の接木スイカ「春のどんらん」において、葉の褐変及び、果実表面の凹凸、内部果皮の黄褐色壊死等の症状が確認された。(国研)九州沖縄農業研究センター野菜病害虫管理グループに診断を依頼したところ、RT-PCR法によってメロンえそ斑点ウイルス—スイカ系統 (*Melon necrotic spot virus* スイカ系統)によるスイカえそ斑点病であることが確認された。
- (2)8月上旬に発生状況調査を行った結果、8ヶ所、穂木5品種(上記品種の他に穂木は「朝ひかりSR」、「富士光TR」、「豪夏」、「羅皇」)、台木2品種(上記品種の他にカボチャ「新土佐」)において発生が確認された。
- (3)本病は鳥取県、高知県、長崎県、新潟県、福井県で発生が確認されている。

6 病徴

- (1)果実では、内部果皮部分に黄褐色でスポンジ状の壊死塊がみられ、果肉は水浸状となり、空洞を伴うことも多い(図1)。果実表面に凹凸が見られる場合もある(図2)。
- (2)葉では、退緑色小斑点、後に黄褐色の壊死斑点(図3)、葉脈壊死が生じ、壊死した葉脈の裏側は水浸状となる(図4、5)。葉柄、巻きひげにも壊死が現れることがある(図6)。

7 病原菌の特徴と伝搬方法

第一次伝染源は汚染された種子や土壌であり、土壌中に生息する糸状菌の一種オルピディウム属菌による媒介や、感染植物からの汁液伝染により発生が広がる。

宿主範囲は、スイカ、ユウガオの他、カボチャ「はやと」、「新土佐」、キュウリ「久留米落合H」、メロン「サンライズ」等の特定品種に感染が認められている。

8 防除対策

本病に対する登録薬剤がないため、発生を認めた場合は、以下の防除対策を行う。

- (1)スイカの連作を避け、極力ウリ科作物以外を輪作する。連作する場合は他の病害虫との防除をかねてクロルピクリンくん蒸剤等により土壌消毒を行う。
- (2)一度使用した資材や用具は消毒する。また、せん定用具は利用の都度、次亜塩素酸水溶液等で消毒を行い、日常の管理作業による接触伝染に注意する。
- (3)発病株は感染源となるため見つけ次第早期に処分する。ただし、発病株を引き抜くと隣接する健全株の根部を傷め本病の感染を助長する恐れがあるため、地際部から茎を切り取り、地上部をほ場外に持ち出す。また、地下部は収穫後にほ場外へ持ち出して適切な処分を行う。
- (4)発生地域からの土壌の移動はまん延を助長するので、ほ場で使用した農機具等を他の場所に移動する前に、土の除去・洗浄を行う。また、洗浄に用いた水については、他のほ場へ流れないように、発生ほ場に留めるなどの措置を行う。
- (5)本病が発生していない場合でも、発病を予防するため上記の対策を行う。

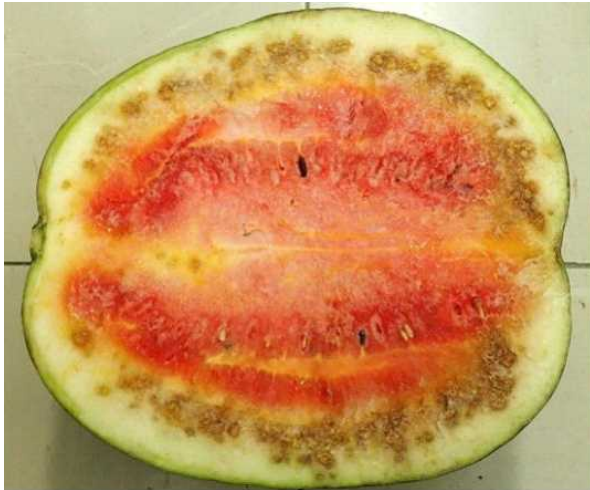


図1. 内部果皮の黄褐色壊死塊



図2. 果実表面の凹凸



図3. 葉の退緑小斑点、黄褐色壊死斑点



図4. 葉表の葉脈壊死



図5. 葉裏の水浸状の葉脈壊死



図6. 葉柄の壊死

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★
TEL : (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933
ホームページアドレス: <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>